

編集後記

この春、国文学専攻においては、大学院文学研究科博士課程が認可され、専攻の新しい歴史が始まろうとしている。われわれの念願が、先輩の先生方の御力添え、職員の方々と学内外の励まし、強く暖かいさまざまな御助力に支えられてこそようやく実現したといえる。しかし、そこでなされるべき学術研究の質がこれから問われるということにおいては、われわれの誰もが身の引き締まる思いをもっているにちがいない。26号とともに本学大学院の修了生を中心に原稿が寄せられ、27号はいわば源氏物語の新しい研究の方向をわずかではあるが探ろうという結果になっているとすれば幸いである。あわせて留学生で国文学専攻の修士第一期生の于君の論文を掲載できたことは、専攻の将来を考える上でもまことに意義深いというべきであらう。

(広田 収)

執筆者紹介

- 広田 収……………本学助教  
 小島 繁一……………本学嘱託講師  
 広岡 曜子……………本学大学院修士課程修了生  
 塩田 和子……………本学嘱託講師  
 于 耀明……………本学大学院修士課程修了生  
 中国 西北大学外語系教員

同志社国文学 第二十七号

昭和六十一年三月五日 印刷

昭和六十一年三月十日 発行

編集 廣川勝美

発行 同志社大学国文学会

(代表) 玉井敬之

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 京都九一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社

京都市右京区西院久田町